

港湾最前線 arbor

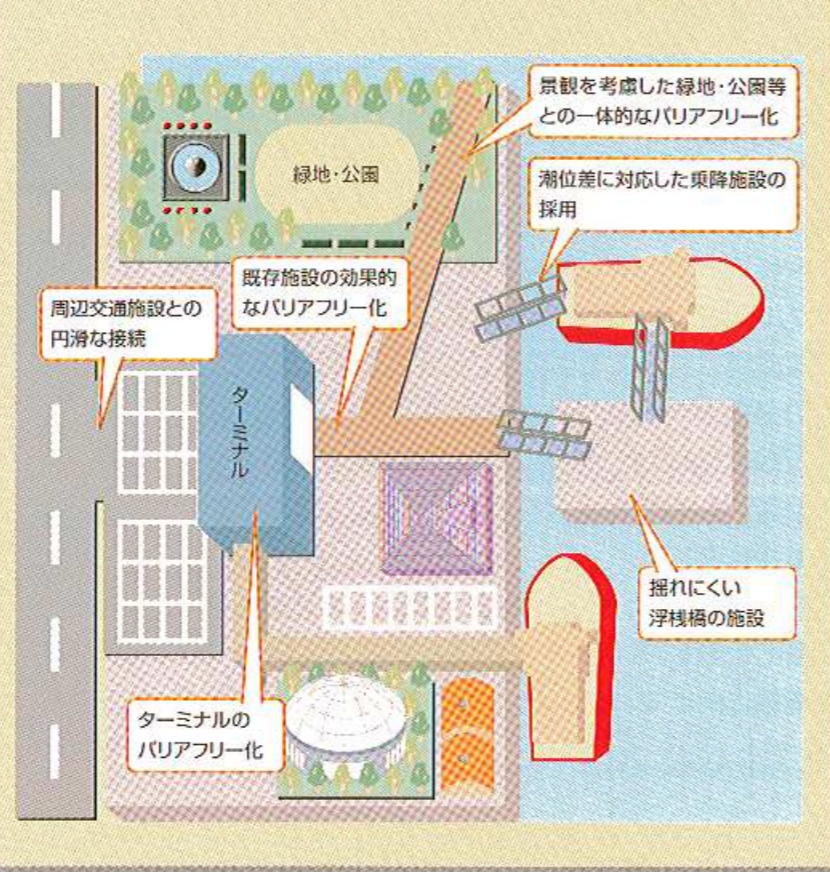
Ports
gateway
to the world

国民生活の質の 向上のために

少子・高齢化社会に対応した 施設のバリアフリー化

みなとは、物流や交通の拠点であるばかりではなく、人々の憩いの場やレジャースポットとしても親しまれています。訪れた人々が安全で快適にみなとを利用できるように、旅客船ターミナルや親水緑地など、さまざまな場所でバリアフリー化が進められています。

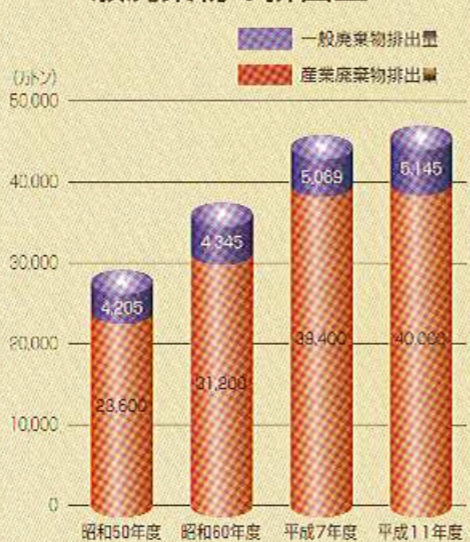
●港湾におけるバリアフリー化の推進



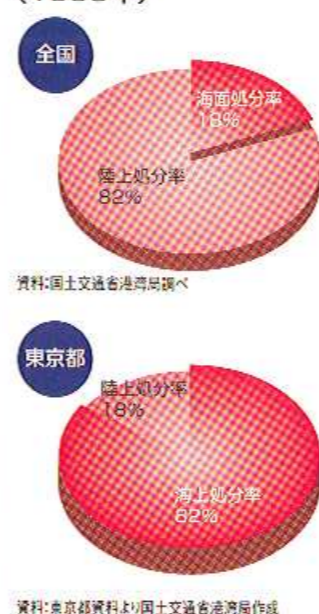
廃棄物の最終処分場の整備

住民の廃棄物処理に対する不安感が大きくなるにつれ、最近、内陸を中心に廃棄物処分場の整備が困難となっており、非常に問題となっています。特に、大都市圏では陸上に廃棄物処分場をつくる余裕がなく、海面処分場への依存度が高いため、既存の海面処分場だけでは処理しきれなくなっています。そこで、廃棄物の減量化とリサイクルを進めるとともに、廃棄物海面処分場の整備、増設が進められています。

●産業廃棄物及び一般廃棄物の排出量



一般廃棄物の海面処分場のシェア (1999年)



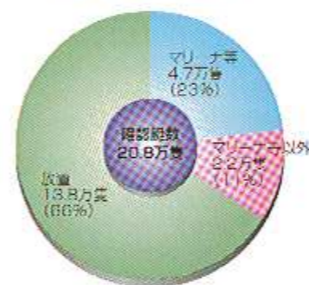
放置艇に対する対策

最近では、マリンスポーツの流行とともに、クルーザーやモーターボート、ヨット、水上オートバイなどの数も増加し、それらが港湾区域に放置されるという問題が深刻化しています。このため、運河や水路等を利用した保管場所(ボートパーク)を整備したり、港湾・河川・漁港の各管理者が連携をとって規制措置を講じたり、沈没船の処理を行ったりと、さまざまな面から対策を進めています。

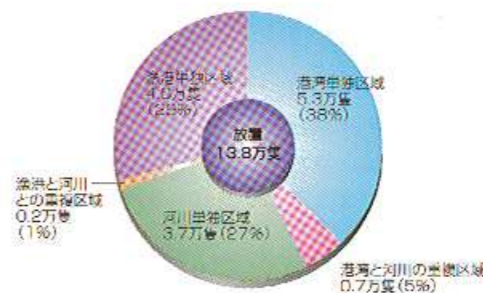


ボートパークのイメージ

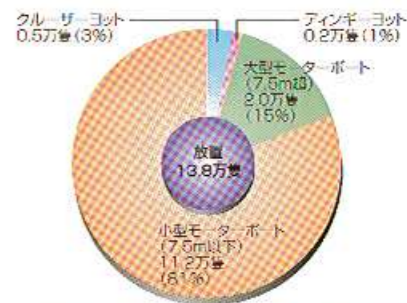
全国の水際線近傍での係留・保管状況



放置艇の区域別状況



放置艇の艇種別状況



流出油防除体制の強化

ナホトカ号重油流出事故をはじめ、近年わが国の周辺で大規模な油の流出事故が起こっています。ひとたび油流出事故が発生すれば、現場とその周辺の海域・沿岸域の環境を破壊し、生態系にも深刻な被害を与えます。もちろん、漁業資源への影響も避けられません。このため、全国のどこで油流出事故が発生しても出勤から概ね48時間で現場に到着できるよう、全国3カ所のみなとに大型しゅんせつ兼油回収船を配備し、流出油防除体制の強化を行っています。



白山

大型しゅんせつ兼油回収船配備図

